

第3回愛媛大学大学院地域レジリエンス学環シンポジウム

テーマ：人口減少社会でもいきいきと輝く地域社会の条件とは

～四国・愛媛から発信する『縮充型地域社会』の実現に向けて～

2024年5月、民間の有識者グループ「人口戦略会議」が2050年までに消滅する可能性があるとする自治体名を公表し、公衆の関心を惹きつけた。この分析によれば、2050年までに20代から30代の女性が半減すると予測される自治体を「消滅可能性自治体」と定義している。しかし、ここでの「消滅」とは、その地域社会が無くなることではなく、行政サービスが持続できなくなることを意味している。たとえ自治体としての機能が停止しても、地域に根差した人々の暮らしは継続されるのである。

一方で、本学が独自の視点から将来推計人口のデータを検証した結果、多くの地域で人口減少と高齢化の同時進行によって厳しい状況に立たされる中、人口が減少するにもかかわらず、世代間バランスが改善して若返りを遂げる地域も見受けられる。地域社会のあり方が大きく二極化する中、持続可能な発展を見据えた地域社会の分岐点はどこに存在するのだろうか。

このシンポジウムは、四国・愛媛をテーマにその問いに対する答えを探すことをねらいとしている。四国は全国の中でも人口減少・少子高齢化の影響が最も進行する地域である。2050年までに人口が増加する自治体が一つも存在しない四国において、私たちが目指すべきあり方は、たとえ人口が減少したとしてもいきいきと輝き続ける『縮充型地域社会』の先進地域である。『縮充型地域社会』を実現するため、私たちはどのように行動しなければならないのだろうか。本企画によって、四国・愛媛から全国に向けて『縮充型地域社会』というこれからのあり方を提案し、その中で地域の大学が果たす具体的な役割を提案したい。

- 1 主催 国立大学法人愛媛大学
- 2 共催 関東学院大学地域創生実践研究所、一般社団法人国立大学協会
- 3 後援 愛媛県、伊予銀行、他（申請中）
- 4 日時 2025年1月29日（水）13時から
- 5 会場 愛媛大学南加記念ホール（意見交換会はMaple）
- 6 アーカイブの掲載

当日の放映記録を編集加工し、後に本学ホームページ等へアーカイブとして掲載

6 プログラム

- 13:00~13:10 開会挨拶
愛媛大学長 仁科 弘重
- 13:10~13:25 地域レジリエンス学環の紹介
愛媛大学大学院地域レジリエンス学環 副学環長 森脇 亮
- 13:25~13:40 イントロダクション
「高齢化が進む地域と若返る地域の分岐点」
愛媛大学大学院地域レジリエンス学環 准教授 大久保 武
- 13:40~14:20 基調講演①
「地域創生を実現するための競争から共創への視点」
関東学院大学法学部地域創生学科 教授
関東学院大学地域創生実践研究所長 牧瀬 稔 氏
- 14:20~14:50 基調講演②
「なぜ若者は地方から出ていくのか
～ダイバーシティと新しい働き方で創る魅力ある地域社会～」
一般社団法人官民共創未来コンソーシアム 代表理事
愛媛県・市町DX推進会議 戦略顧問 小田 理恵子 氏
- 14:50~15:00 休憩
- 15:00~15:25 実践事例報告①
「地方と人口減少」 松前町長 田中 浩介 氏
- 15:25~15:50 実践事例報告②
「大洲市の歴史的建造物を活用した官民共創による町並み再生」
株式会社伊予銀行地域創生部長 赤塚 昌弘 氏
- 15:50~15:55 舞台転換
- 15:55~17:10 パネルディスカッション
「四国・愛媛から発信する『縮充型地域社会』の実現に向けた戦略」
【パネリスト】
牧瀬 稔 氏
小田 理恵子 氏
田中 浩介 氏
赤塚 昌弘 氏
今西 晋 氏（愛媛新聞社編集局報道部 副部長）
【コメンテーター】
松村 暢彦（愛媛大学社会共創学部長 地域レジリエンス学環 教授）
【コーディネーター】
大久保 武
- 17:10~17:15 閉会挨拶
愛媛大学大学院地域レジリエンス学環長 宇野 英満
- 17:30~ 参加者との意見交換会